

2013年度

海外研修・研究等 助成事業 研修報告

ユネスコ文学都市 アイオワ・ サマー・ライティング・ フェスティバルへの 参加を通じて

静岡県立静岡西高等学校 教諭 漆畑祐佳

英語での作文教育技法、及びユネスコ文学都市の共同体としての発展性を学ぶため、第27回アイオワ・サマー・ライティング・フェスティバルに参加した。アイオワ大学生涯学習課の主催であり、77年の伝統をもち、創作において全米1位にランクされているThe Iowa Writers' Workshop(アイオワ大学大学院創作文文学科)と連携している。創始者ベギー・ヒューストンさんによると、一番重要なのは講師の質であり、前年度の受講生の評価が講師にとって最も重きをなしているとのことであった。

1 情熱ある講師による最高のアドバイス

講師たちは、皆教えることに情熱を惜しまない。平日コースでは、午前は日替わりの全体講義がある。シャンリー先生は随想録の書き方を講義し、ラブリー先生はマラソンのような作文訓練の必要性を説いた。それらは後日ポッドキャストで配信された。

午後は、ラジオ番組も担当するジョンソン先生から、絵本や自叙伝、回想録の書き方を学んだ。様々な絵本や回想録の誕生秘話を、直接作家から聞いた話と織り交ぜた講義であった。授業以外でも個人面談をし、生徒個々の多様なニーズに応じていたことは印象的であった。週末コースではワリエ先生とダーモント先生から志望理由書の書き方などについて学んだ。

アメリカ最難関のThe Iowa Writers' Workshop、小説部門は1,000人以上が受験し合格者は20人前後という、その卒業生でもあり著名な作家でもあるダーモント先生は、「志願者について更に知りたくなるような、人を感動させる志望理由を美しく、正直にそして具体的に書くこと」を情熱を込めて語り、午前2時間、午後3時間と昼休み以外は小休止もなく、受講生一人ひとりのために考える最高のアドバイスを与え続けた。

2 ユネスコ文化都市としての活動

アイオワ・シティーは2008年にUNESCO City of Literature(ユネスコ文学都市)に認定された。そこでは、文学が教室を出て、地域共同体の中へ溶け込んでいるかが重要なテーマとなっている。

受講生には開講時、トートバックやTシャツ、カフェでのコーヒーが無料となる名札、地元で買い物をするための割引クーポン、ショップ案内の冊子などが配布され、これらを持って街を歩く受講生の姿が目についた。街路の掲示板には、小学生たちの創作した詩がいくつも掲載され、書店にはアイオワ大学の学生たちによるアウトリーチ活動(教育普及活動)の成果が高校生の作品集として販売されていた。

3 研修を終えて

アイオワの作文教育の根源は情熱である。講師たちの人間的な厚みや、出版経験の有無に関わらず、受講生たちの真剣さにも圧倒された。開拓時代からのアイオワの伝統が、自発的な勉学を促すことばの創作教育にも息づいているようだった。この研修を通じて学んだ教える情熱と、受講生の多くの才能に驚かされことを糧に、英語で発信し世界と繋がる英語の授業を創出して行きたい。

静岡県におけるユネスコ文学都市の誕生も夢見ながら、一つ一つの授業やより多くの人々とのつながりの中に、成果を確実に還元できるように努めていきたい。



クラス講義のようす